

「求められる薬剤師への道程」と「生涯学習の在り方と現況」

公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構

代表理事 内山 充

新しい年を迎えてご挨拶を申し上げます。

2012 年は、多事多難であった昨年からの懸案事項に加えて、再建、復興に向けての本格的な計画の出発の年として腰を据えた取り組みが求められる重要な年となることでしょう。

薬剤師に関しても、今年は6年制教育の第1期生の巣立ちの年となります。大学教育に引き続いて、一人前の薬剤師を養成する上での必須要件とされている生涯学習についても、改めて基本的考え方を共通認識として確認しておくべき時期であると考えます。

昨年末の本コラムに記しましたように、今回、これまで当認証機構ホームページ等を通じて、薬剤師生涯学習の原則と在り方等について随時述べてきた内容を取りまとめ、昨年 12 月 16 日開催の当機構理事会及び薬剤師認定制度委員会の議を経て、『[求められる薬剤師への道程](#)』と『[生涯学習の在り方と現況](#)』をイメージとして表し、簡単な解説を作成いたしましたので、薬剤師生涯学習の基本的考え方についての提言として公表いたします。

社会から求められる薬剤師を作ることは、われわれ薬剤師教育・研修に携わる者の責務であります。また、厚労省医政局の「専門医制の在り方検討会」で、専門職の研修や認定制度及びその評価について熱心な討議が開始されたこともあり、同じ医療職として薬剤師生涯研修とその評価制度に関する現状と問題点を把握し、今後の薬剤師生涯学習の運営計画策定における指導理論の参考として提言することが、当認証機構の務めであると考えます。

薬剤師生涯学習の正しい効果的な推進のために、関係各方面の活発なご検討とご尽力を切望いたします。

(2012. 1. 10)